

# 千葉県 STI (性感染症) 研究会

## — 第 13 回 学 術 集 会 —

日 時 : 平成 27 年 7 月 11 日 (土)

午後 2 時 30 分 ~ 6 時

場 所 : 京葉銀行文化プラザ

千葉市中央区富士見 1-3-2 (043-202-0800)

J R 千葉駅東口下車、ロータリーより徒歩約 3 分

主 催 : 千葉県 STI (性感染症) 研究会

共 催 : NPO 千葉健康づくり研究ネットワーク、アルフレササフアーマ株式会社

後 援 : 千葉県、千葉県医師会、日本性感染症学会、性の健康医学財団、  
(予定) 千葉県産科婦人科医学会、千葉県皮膚科医会、千葉県泌尿器科医会、  
千葉市医師会、千葉県助産師会、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、  
朝日新聞千葉総局、読売新聞東京本社千葉支局、毎日新聞社千葉支局、  
産経新聞社千葉総局、株式会社千葉日報社

千葉県 STI (性感染症) 研究会

千葉大学医学部本館 NPO 千葉健康づくり研究ネットワーク内

Tel & Fax : 043 - 226 - 2040

# 目 次

## プログラム 1

## 講演抄録 2

- 講演 1 性感染症は再び増加している  
ー過去9年間の千葉県発生動向調査ー  
講師 五十嵐 辰男（千葉大学フロンティア工学センター 教授）

- 講演 2 中学3年生を対象とした、  
自分の命を自分で守れる生徒の育成を目指した活動  
講師 畠山 順子（千葉縣市原市立若葉小学校 養護教諭）

## 講演抄録 3

- 講演 3 中高生に必要な感染症の知識  
講師 千見寺 ひろみ（千葉県皮膚科医会 会長）

## 招聘講演抄録 4

- 講演 性感染症：産婦人科医の視点から  
講師 岩破 一博（京都府立医科大学大学院医学研究科女性生涯医科学 准教授）

## STI研究会11年のあゆみ 5

## 千葉県 STI（性感染症）研究会 第 13 回学術集会 プログラム

14:30 ～14:40 感染症と迅速診断キットの意義について

アルフレッサファーマ株式会社

14:45 ～14:50 開会の辞

伊藤 晴夫（千葉大学名誉教授、NPO 千葉健康づくり研究ネットワーク理事長）

14:55 ～16:35 講 演

座 長 齋藤 裕子（市原市立ちはら台中学校, 千葉県養護教諭会 副会長）

1. 性感染症は再び増加している —過去 9 年間の千葉県発生动向調査—  
五十嵐 辰男（千葉大学フロンティア工学センター 教授）
2. 中学 3 年生を対象とした、自分の命を自分で守れる生徒の育成を目指した活動  
畠山 順子（市原市立若葉小学校 養護教諭）
3. 中高生に必要な感染症の知識  
千見寺 ひろみ（千葉県皮膚科医会 会長）

16:40 ～16:50 . . . 休 憩 . . .

16:50 ～17:55 招聘講演

座 長 高橋 敬一（高橋ウイメンズクリニック院長）

演題 性感染症：産婦人科医の視点から

岩破 一博（京都市立医科大学大学院医学研究科女性生涯医科学 准教授）

17:55 ～18:00 閉会の辞

川名 尚（前帝京平成看護短期大学 学長）

† 参加証 交 付 . . . 日本医師会生涯教育認定講座参加証（3 単位）

日本性感染症学会認定医・認定士参加証（3 単位）

† 研修シール交付 . . . 千葉県産科婦人科医学会研修シール

## 講演抄録

### 講演 1 性感染症は再び増加している —過去9年間の千葉県発生動向調査— 五十嵐 辰男（千葉大学フロンティア工学センター 教授）

#### 【はじめに】

本邦の性感染症発生数は、2002年をピークに漸減傾向を示しているが、2010年頃から増加傾向に転じている。千葉県における性感染症の動態を検討した。

#### 【対象、方法】

2006年度から2014年度のそれぞれ1か月間に千葉県内の産婦人科、泌尿器科、皮膚科を第一標榜科とする医療機関を受診した患者のうち、初診で性感染症と診断された患者を対象とした。調査方法は調査用紙を産婦人科医会、泌尿器科医会、皮膚科医会の会員である医療機関に送付するアンケート形式で行った。回答を集計した。

#### 【結果】

平成26年度は477医療機関に調査用紙を送付し、328施設（69%）からの回答を得た。回答率は2009年より安定していた。性感染症発生数は、平成26年度は808例であり、nadirであった2010年度の576例と比べると1.4倍と増加していた。これは本調査を開始した2006年度発生数の82%に達していた。前年度より増加傾向の著しい疾患は非淋菌非クラミジア尿道炎（1.4倍）、性器クラミジア感染症（1.3倍）、性器ヘルペス感染症（1.3倍）であり、次いで尖圭コンジローマ（1.2倍）、淋菌性尿道炎（1.1倍）の順であった。

#### 【結語】

過去9年間の千葉県性感染症全数調査結果を集計し、本感染症の再増加傾向を見出した。増加要因を解析し、報告する予定である。

### 講演 2 中学3年生を対象とした、 自分の命を自分で守れる生徒の育成を目指した活動 畠山 順子（千葉県市原市立若葉小学校 養護教諭）

性・性感染症についての正しい知識だけでなく、デートDVを含めた中学生の男女の交際のあり方を学ぶことで、命の大切さ・尊さや性にこだわらずお互いを大切にする人間関係作りの基本となるコミュニケーション力の大切さに気づかせたいと考え、学年集会の場を利用し中学3年生を対象に実施した結果を報告します。

産婦人科医という専門医の立場で宗田哲男先生（宗田マタニティクリニック院長）を講師に招き、出産シーンから感じとる命の誕生、デートDV、性・性感染症などについて学んだことで、命の大切や相手を思いやる気持ちを大事にしたいなど生徒の意識に変化がみられました。心身の成長の個人差はあるが、義務教育の最終学年に実施することは、高校生活や社会に出た時に自分や仲間もパートナーも大事にできる考え方や行動ができるよう指導する最後のチャンスで有ることから意義は大きいと考えています。

### 講演 3 中高生に必要な性感染症の知識

千見寺 ひろみ（千葉県皮膚科医会 会長）

性行為（セックス、エッチ）、性行動は人間が子どもを残そうとする本能に基づくごく自然な欲求からくる行動です。加えてパートナーとのスキンシップによるコミュニケーションに役立つと考えられます。

しかしながら、セックスすることによって降りかかるかもしれないリスクがある事を常に忘れてはいけません。

一つは望まない妊娠、一つは性行為によって感染するいくつかの性感染症という病気です。中高生の性行動については初体験年齢の低下傾向がある事、性行為をする相手の数が多い学生が存在する事、無防備なセックスを行う事が問題点として挙げられており、これらはすべての性感染症の大きなリスクファクターになっています。

性感染症は病原体によっていろいろな種類があり、性行為をするすべての人が感染リスクにさらされています。

特に知って欲しい疾患

- 1) クラジミア感染症
  - 2) 淋病感染症
  - 3) 梅毒
  - 4) HIV
  - 5) 性器ヘルペス
  - 6) ヒト乳頭腫ウイルス
- について供覧する。

## 招聘講演抄録

演題 性感染症：産婦人科医の視点から

岩破 一博（京都府立医科大学大学院医学研究科女性生涯医科学 准教授）

昔の性病は、感染すると症状が現れるが、最近の性感染症（STI）は、症状が現れにくく、感染して気づかないことがある。即ち、知らない間に相手にうつしてしまう可能性があることが問題である。年次推移は、感染症発生動向調査で 03 年から減少しているが、厚労科研の全数調査で 2012 年と 2013 年との、STI 発症受診者の推移は、若年者で、男女とも増加している。クラミジア感染症（CT）、淋菌感染症（NG）、尖圭コンジローマ、性器ヘルペスウイルス感染症（性器ヘルペス感染症）は、感染症法で 5 類感染症として STI 定点から報告が義務付けられている。STI を産婦人科の視点から問題点を解説する。

CT は、無症状化・若年化し、患者の再診率が低く、パートナーの治療の問題がある。定点報告は症状のある患者で、無症状の感染者は含まれていない。状況を把握するためには、京都の無症状の特定集団、妊婦スクリーニングでの検討結果を示す。適切な治療で母児感染防止は可能であったが、若年妊婦では年々増加傾向にあった。骨盤炎症性疾患から波及する Fitz-Hugh-Curtis 症候群、イレウスや性行動の多様化による咽頭感染、直腸炎などの性器外病変がある。

GN は、培養法や遺伝子増幅法の適正な使用があげられ、治療では、耐性菌の増加し、2009 年セフトリアキソンに高度耐性を示す株が分離された。薬剤感受性サーベイランスの実施や抗菌薬の適正使用が必要で、このままでは近い将来 GN に使用できる薬剤がなくなると危機感もあり、抗菌力を有する新規抗菌薬の開発が望まれる。新生児における抗菌薬の予防投与法の確立や妊婦での CT と共に NG のスクリーニングの必要がある。

尖圭コンジローマは、ヒトパピローマウイルス 6、11 型が原因で、生殖器とその周辺に発症する。隆起性病変が特徴で、淡紅色～褐色の乳頭状、鶏冠状、カリフラワー状と表現される。前庭部乳頭と比較する。一度罹患すると再発を繰り返し、合併妊婦から出生する児の若年性再発性呼吸器乳頭腫症が問題となる。

性器ヘルペスは、単純ヘルペスウイルスの感染によって性器やその周辺に水疱や潰瘍等の病変が形成される疾患である。治療は軟膏だけでなく内服薬を使用することが重要である。

# 千葉県STI研究会 11年のあゆみ

## 第1回学術集会(2004.6.19)

講演「高校におけるエイズ教育(性教育)への取り組み」

赤澤 宏治(千葉県立四街道高校教諭)

講演「性感染症の予防と治療 ～その今日的課題～」

川名 尚(日本性感染症学会常務理事)

## 第2回学術集会(2005.2.19)

講演「泌尿器科診療所での性感染症」

坂井 誠一(さかい泌尿器科医院 院長)

講演「中学校における命の大切さを教える教育」

米崎 美知子(市原市立南総中学校教諭)

一般演題(1)「中学生・高校生の意識と行動について・

高校生製作エイズ啓発ビデオ『理解』の紹介」

赤澤 宏治(県立四街道高校)

一般演題(2)「T大学におけるエイズ啓発普及活動について」

川崎 ゆきの(野田健康福祉センター)

講演「日本における性感染症サーベイランスの解説と千葉県STI研究会の今後の活動」

高橋 敬一(高橋ウイメンズクリニック 院長)

## 第3回学術集会(2005.10.1)

講演「この若者たちの中の性感染症大流行!!を放置しておいてよいのだろうか？」

ー性器クラミジア感染症を中心としてー

熊本 悦明(札幌医科大学名誉教授、性の健康医学財団名誉会頭)

講演「エイズの現況と予防啓発」

佐藤 武幸(千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部部長)

講演「銚子市における性教育の取り組みについて」

水谷 敏郎(銚子市立総合病院 副院長)

## **第4回学術集会(2006.6.10)**

講演「ウイルス性感染症の制御への動き

—単純ヘルペスウイルスとヒト乳頭腫ウイルス—

川名 尚（帝京平成短期大学副学長、日本性感染症学会常任理事）

講演「血流ウイルス感染とSTI」

菅野 治重（医療法人社団徳風会高根病院 副院長）

## **第5回学術集会(2007.6.23)**

講演「最近のSTD感染の動向と治療と及び検査の進歩」

松田 静治（性と健康医学財団 理事長）

講演「千葉県のSTD実態調査・中間報告」

伊藤 晴夫（千葉大学医学部前教授）

講演「日本小児科学会からの提言：思春期の妊娠と性感染症」

佐藤 武幸（千葉大学医学部附属病院 感染症管理治療部 部長）

講演「今日的性教育・性感染症予防教育のすすめ方」

武田 敏（千葉大学教育学部 名誉教授）

## **第6回学術集会(2008.6.21)**

講演「4モデル県における性感染症全数調査の概要」

小野寺 昭一（東京慈恵会医科大学感染制御部 教授）

パネルディスカッション

テーマ：教育現場と医療現場の現状と問題点（特に思春期について）

司 会 佐藤 武幸（千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部 部長）

赤澤 宏治（千葉県立四街道高等学校）

## **第7回学術集会(2009.6.27)**

講演「最近のSTIの動向」

清田 浩（東京慈恵会医科大学附属青戸病院泌尿器科 准教授）

講演「3年間の千葉県性感染症発生数調査報告」

五十嵐 辰男（千葉大学70年代イノベーション工学研究開発センター 教授）

講演「HPVワクチンとその課題」

川名 尚（帝京平成看護短期大学 学長）

解 説 「日本性感染症学会認定医・認定士について」

佐藤 武幸（千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部 部長）



## **第8回学術集会(2010.7.10)**

講演「ヒトパピローマウイルス（HPV）関連疾患とHPV予防ワクチンの使い方」

川名 敬 （東京大学医学部産科婦人科学教室 助教）

講演「性感染症のUpdateー咽頭感染を含めてー」

尾上 泰彦 （宮本町中央診療所 院長）

## **第9回学術集会(2011.7.2)**

講演「HPVワクチンを見直す～最近のデータから言えること」

川名 敬 （東京大学医学部産科婦人科学教室 助教）

講演「学校と家庭における性感染症予防教育の新課題と実践」

武田 敏 （千葉大学教育学部 名誉教授）

講演「千葉県性感染症発生数調査、過去4年間の動向」

五十嵐 辰男 （千葉大学大学院工学研究科人工システム科学  
専攻ディレクター 教授）

## **第10回学術集会(2012.6.23)**

講演「千葉県性感染症発生全数調査報告」

五十嵐 辰男 （千葉大学大学院工学研究科人工システム科学専攻  
ディレクター 教授）

シンポジウム「思春期の性と健康ー性感染症から身を守るためにー」

司会 赤澤 宏治 （千葉県立船橋東高等学校教諭）

高橋 敬一 （高橋ウイメンズクリニック院長）

一部 日本性感染症学会 DVD 図説解説

高橋 敬一 （高橋ウイメンズクリニック院長）

二部 若者への性感染予防啓発

①若者向け啓発スライド（日本思春期学会と日本性感染症学会共同制作）の紹介

佐藤 武幸 （千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部長）

②高校卒業時の同窓生へのピアエデュケーション経験

大島 華奈 （慶應義塾大学 1年）

③啓発スライドの実践での活用方法

武田 敏 （千葉大学教育学部名誉教授）

## 第11回学術集会(2013.7.6)

講演「千葉県と全国の性感染症調査について」

五十嵐 辰男 (千葉大学大学院工学研究科人工システム科学専攻

ディレクター 教授)

講演「最近の10年間の性感染症の動向」

高橋 敬一 (高橋ウイメンズクリニック院長)

シンポジウム HPVワクチンと教育現場での健康教育を考える

1. HPVワクチンの概説—学校現場で伝えてほしい点

佐藤 武幸 (千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部部長)

2. 親・子どもからのHPVワクチンアンケート調査結果：HPVワクチン・  
性感染症の講義経験を踏まえて

高橋 かん奈 (市立習志野高校 養護教諭)

3. 学校での健康教育の現状

赤澤 宏治 (千葉県立船橋東高等学校 教諭)

4. 健康教育：保健所・行政の立場より

山口 淳一 (千葉市保健所長)

5. 健康教育：医師・教育委員の立場より—中学校における性感染症教育について

中野 義澄 (医師、千葉市教育委員)

## 第12回学術集会(2014.7.12)

講演「性感染症、今何が問題か—動向、耐性菌、適正治療など—

荒川 創一 (神戸大学院 腎泌尿器科学分野 特命教授)

シンポジウム

1. 千葉県におけるHIVの現状

佐藤 武幸 (前・千葉大学医学部附属病院 感染症管理治療部部長)

2. 授業例 HIVに感染した子供に対する共感性形成スキル

「もしも、クラスの仲間がHIVに感染していたら・・・」

赤澤 宏治 (千葉県立船橋東高等学校 教諭)

3. HPVワクチンの現況

岩崎 秀昭 (千葉市立青葉病院 産婦人科副院長)